



通常の学級	96	3	86	3	81	3	92	3	95	3	101	3
特別支援学級	7	3	4	3	3	3	3	3	3	3	6	4
通級による指導 (対象者数)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	28	1	3	0	1	1	0		4	40

指定校名：四條畷南小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	24	1	36	2	21	1	32	1	31	1	40	2
特別支援学級	3	2	1	1	5	2	2	2	0	0	3	3
通級による指導 (対象者数)	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	2	1
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	12	1	4	0	1	1	0		4	25

指定校名：忍ヶ丘小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	59	2	79	3	73	2	77	2	81	3	83	3
特別支援学級	1	1	3	2	2	2	5	3	5	3	3	3
通級による指導 (対象者数)	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	20	1	4	0	1	1	0		4	33

指定校名：四條畷東小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	26	1	37	2	42	2	51	2	48	2	45	2
特別支援学級	5	3	5	3	1	1	2	2	1	1	4	2
通級による指導 (対象者数)	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0	0	0
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	15	1	3	0	1	1	0		3	26

指定校名：岡部小学校						
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年

	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	99	3	89	3	101	3	99	3	99	3	101	3
特別支援学級	4	4	5	4	6	5	3	2	6	4	5	4
通級による指導 (対象者数)	0	0	0	0	0	0	7	1	1	1	1	1
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	29	1	1	0	1	1	0		5	40

指定校名：くすのき小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	70	2	83	3	79	2	89	3	77	2	85	3
特別支援学級	4	3	3	2	6	5	3	3	7	4	3	3
通級による指導 (対象者数)	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	23	1	3	0	3	1	0		4	37

(中学校)

指定校名：四條畷中学校												
	第1学年			第2学年			第3学年					
	生徒数		学級数	生徒数		学級数	生徒数		学級数			
通常の学級	184		5	209		6	206		6			
特別支援学級	4		3	6		3	3		2			
通級による指導 (対象者数)	0		0	1		1	0		0			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	28	1	7	1	1	1	1		2	44

指定校名：四條畷南中学校												
	第1学年			第2学年			第3学年					
	生徒数		学級数	生徒数		学級数	生徒数		学級数			
通常の学級	118		3	120		4	149		4			
特別支援学級	3		2	2		1	4		3			
通級による指導 (対象者数)	0		0	0		0	3		1			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	23	1	1	1	2	1	1		3	35

指定校名：四條畷西中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	156		4		148		4		159	4	
特別支援学級	6		3		5		3		3	2	
通級による指導 (対象者数)	0		0		0		0		1	1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	24	1	3	1	2	1	1	1	36

指定校名：田原中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	136		4		122		4		119	4	
特別支援学級	4		1		5		2		1	1	
通級による指導 (対象者数)	0		0		0		0		0	0	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	20	1	4	1	1	1	1	2	33

#### 4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子供たちの実態を把握し、発達障がい等の特性理解を含め支援教育の視点を取り入れながら、学習面や集団行動におけるつまづきを想定した教育実践力の向上を図る。</li> <li>○学校全体の取組みとして、教職員がお互い高め合えるような学校体制の構築。</li> <li>○放課後補充指導や土曜日フォローアップ教室等と連携し、子供たちの実態に応じたより効果的な指導方法の充実を図る。</li> </ul> <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(第1段階) 学級担任や教科担当教員による気づき</li> <li>(第2段階) 校内委員会等で共有及び協議、指導及び学習環境等の工夫</li> <li>(第3段階) 保護者との連携、チェックシートを活用して分析</li> <li>(第4段階) 学識経験者等によるアセスメント</li> <li>(第5段階) 関係機関や通級指導教室、支援学級へのつなぎ</li> </ul> <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容</li> </ul> <p><b>見通しが持てる授業展開の推進</b></p> <p>「めあて」や1時間の授業の流れの提示をすることにより、発達障がいの可能性のある子供に関わらずすべての子供が見通しをもって落ち着いて学習に臨むことができる。</p>
---

#### 子供が主体的に取り組める展開

教科の特性及び理論を理解し、質を落とすことなく教材研究を行う。子供に活動の場を与えたり、ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れるなど、子供の思考や認知特性の多様性を踏まえた授業形態を追求する。

#### 視覚化・構造化・共有化を意識した授業構成

(視覚化) 子供の認知特性の多様性を踏まえ、口頭だけの指導ではなく視覚的に訴える工夫を施す。

(構造化) 板書の構造化や授業構成の構造化を図り、可能な限りパターン化して見通しを持ちやすくする。

(共有化) 常にペアやグループを意識し、自分の考えを共有することにより、自信が持てたり、考えを深めたりすることができる。

#### ・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容

放課後補充指導における個別指導においても、子供の特性や実態を共有することを心がけて取組んだ。必要に応じて、パーソナルスペースを準備することにより、落ち着いて効率よく取り組むことができるようになった。また、個別の小さなホワイトボードで個別対応することで集中して学習に取り組めた。この事例をきっかけに、放課後フォローアップ用にホワイトボードやタイムタイマーを購入につながった。

#### ④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

この視点については、今後も継続して研究していく必要がある。基本的には、支援方法が適していたのかどうかについては、その後の当該児童生徒の学習理解度や行動面の様子で評価するように心がけた。

一方で、授業のユニバーサルデザイン化や子供の実態に応じた学級集団づくりを進める中で、学級全体が落ち着くことにより、学習理解度があがったり、行動が落ち着くことが見られ、その点については、本市の予算で取り組んでいるQU検査等で評価することも可能である。

## 5. 主な成果

今年度、取り組んだ結果、以下の通り、市内小中学校の組織的な体制構築や教職員の授業づくりに係る意識向上に繋がった。

【市独自アンケート ※市内11校教職員向け実施。前期：概ね6月、後期：概ね12月に実施】

### 1. 【組織的な推進】

●学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか。

(前期肯定的評価) 84.1% ⇒ (後期肯定的評価) 89.3%

### 2. 【授業づくり】

●学年の児童生徒に対して、今年度、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れられましたか。

(前期肯定的評価) 86.2% ⇒ (後期肯定的評価) 90.4%

●学年の児童生徒に対して、今年度、学級やグループで話し合う活動を授業な

どで行いましたか。

(前期肯定的評価) 71.6% ⇒ (後期肯定的評価) 81.7%

- 特別支援教育について理解し、学年の児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか。

(前期肯定的評価) 86.7% ⇒ (後期肯定的評価) 88.6%

内、(前期最肯定的) 17.9% ⇒ (後期最肯定的評価) 25.6%

その他、校内や教室内の学習環境において、物の置き場所を指定するとともに写真でモデルが示されていたり、耳や目からの刺激量を減らしたりするなど発達障がいの可能性のある児童生徒にとっても、落ち着いて学習できるような工夫が多く見られた。

## 6. 今後の課題と対応

上のような成果が、市内各校において見られるようになってきたのは、今後の本市の学力向上へ何らかの結果に繋がるものと考えているが、各校個別のデータを見ると未だ意識に差があり、指導主事による学校訪問や授業参観を行う中では、中学校はデータ以上に、より一層の推進が必要であると感じている。

加えて、学習環境の整備や教職員の意識向上のみならず、児童生徒の実態把握が肝要である。教職員向けと同様時期に行った市独自の児童生徒向けのアンケート(市内11校小4~中3対象)の結果は、以下のとおりである。

### 【授業づくり】

- 授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。

(前期最肯定的評価) 50.6% ⇒ (後期再肯定的評価) 50.8%

- 学級の友達との間・生徒の間話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

(前期再肯定的評価) 46.1% ⇒ (後期再肯定的評価) 44.8%

この結果から分析すると、

- ・取組みが子供の実態に合っているか。
- ・その質はどうか。

などについて、課題と感じるとともに、次年度はこの点について深める必要性を感じている。

そのために、

- ①管理職のリーダーシップが必要と捉え、より意識向上に向けた研修等の充実を図る。
- ②先進的な取組みや市内の教員の好実践事例を広く発信する。
- ③子供の実態に応じた取組みを進めるべく、子供の実態把握の充実を図る。

以上の取組みをより一層強化してまいりたいと考えている。

※四條畷市では、「障害」を「障がい」と表記している。

## 7. 問い合わせ先

組織名：四條畷市教育委員会

- (1) 担当部署 教育部学校教育課
- (2) 所在地 大阪府四條畷市中野本町1番1号
- (3) 電話番号 072-877-2121
- (4) FAX番号 072-877-8300
- (5) メールアドレス [gakukyou@city.shijonawate.lg.jp](mailto:gakukyou@city.shijonawate.lg.jp)